



延命地藏は、身替り地藏

「お地藏さまが身替りに守ってくれたのでようか」

荒川区の文化財でもある延命地藏は、寛保元年(1741)年に建立されました。27個の花崗岩の寄せ石造りでできています。高さは一丈二尺、約3.6mで、重さは70トンあります。高齢者の方は、コツのお地藏さんでお馴染みがあるのではないのでしょうか。

昨年の3月11日の東日本大震災、荒川区では震度5でした。2回目の揺れで延命地藏の左手が音もなく、すっぽりと外れ落ちました。不思議なことに宝珠を持った左手は無傷でした。宝珠(如意宝珠)とは、頭部がとがり、その左右両側から魂が火炎が燃え上がっている表現したもので、願いをかなえてくれる不思議な玉のことです。

地藏菩薩は右手に錫杖(僧侶・修験者などが持ち歩くつえ)を持ちます。錫杖の頭部は塔婆形で数個の環がかけられてあり、振ったり地面を強く突いたりして鳴らして邪悪のものを清めたりします。他のお寺では、墓石が倒れたりした所



もありましたが、延命寺(浄土宗)の墓石は、倒壊など被害はありませんでした。

「空襲の時、川に逃げた多くの人達は亡くなりましたが、お地藏さんの所に逃げた人達は助かりました」

建立から270年間延命地藏は風雪にさらされながらも、関東大震災や東京大空襲でコツ通りが全滅しても、無傷でした。延命地藏の前は、小塚原処刑場でした。小塚原刑場は鈴ヶ森刑場と共に江戸二大刑場です。延命地藏は処刑された約20万人近くの人々の、またその家族の悲しみを受け止めて来ました。

常磐新線の工事の時には、名もなき105体の頭蓋骨と身体の骨が発掘されました。三途の川の船賃の六文銭も見つかりました。

「子供のころ、お地藏さんに助けられました」

地藏菩薩は、大地が全ての命を育む力を蔵するように、苦悩の人々をその無限の大慈悲の心で包み込み、救う所から名付けられたとされています。一般的には「子供の守り神」です。

住職の奥様の水野純子さんは、幼少期に食事も水分も取れず瀕死の状態だった時、お母さんが延命地藏にお参りをして回復して一命を取りとめたそうです。延命寺に嫁いだのも、ご縁があったのでしよう。腕が落ち、胴体部分がずれてしまい、倒



下に降りています。

今月下旬から復元工事に入り、8月末には元通りになる予定です。

しかし、復元工事の総経費は約600万円かかり、荒川区から250万円の補助金出る予定ですが、350万円はめどが立っておりません。延命地藏は、身替り地藏です。

柔和な顔立ちで、多くの人に平等に優しくを分け与えてくれる延命地藏の修復に募金のご協力をお願い致します。

一口500円で延命寺にて、受付致します。延命地藏に因

んだコツ通り商店街の「こりやく富くじ市」(毎月第3土曜日午後1時)や、8月4日

・5日開催のジョイフル三ノ輪の縁日大会でも、受付致します。

皆様の浄財で、ぜひ延命地藏を生き返らせていただけませんか。



壊の危険性があるため、延命地藏は、昨年3月17日に区からの補助金でクレーン車で解体され